

豊岡市図書館 未来プラン

新版



2021 年 10 月

豊岡市

目次

第1章 未来プランの策定と基本的な考え方 ... 1

- 1-1 未来プランの概要 1
 - (1) 目 的 1
 - (2) 位置づけ 1
 - (3) 取組期間 1
- 1-2 策定の背景 2
 - (1) 豊岡市第3次行政改革大綱
(2014年度～2021年度) 2
 - (2) 図書館のあり方検討の経緯 2
 - (3) 豊岡市図書館未来プラン検討会議
の設置 2
 - (4) 中間検証の実施 2

第2章 図書館の現状と課題 3

- 2-1 現状 3
 - (1) 人口推移、入館者数、貸出点数の
推移 3
 - (2) 年代別利用者の登録数 4
 - (3) 事業の現状 5
- 2-2 施設面 5
 - (1) 建物・機器 5
 - (2) 書 架 5
- 2-3 国内の図書館を取り巻く社会情勢 6
 - (1) 複合機能型・滞在型の図書館 6
 - (2) 子どもの読書活動の推進
(学校図書館との連携) 6
 - (3) 活発化する市民活動との協働 6
 - (4) 新型コロナウイルス感染症への対応 7

- 2-4 図書館未来プラン検証会議の調査検
討（後期） 7
 - (1) 事業評価 7
 - (2) 利用者アンケート 8
 - (3) 市民協働ワークショップ 8
- 2-5 現状と課題のまとめ 9

第3章 図書館の機能強化 10

- 3-1 目指す姿 10
- 3-2 機能強化の柱と視点 11
 - (1) 柱 11
 - (2) 視点 12
- 3-3 後期5年間に取り組む内容 13
 - (1) 施設機能の整備 13
 - (2) 施設の長寿命化 14
 - (3) 事業推進体制の見直し 14
- 3-4 管理運営計画 15
 - (1) 図書館の運営方式について 15
 - (2) 組織の検討 15
 - (3) 施設利用 15

第4章 事業推進計画 16

- 4-1 戦略体系図 16
- 4-2 事業推進スケジュール 17

豊岡市図書館未来プラン検討会議委員名簿... 18

豊岡市図書館未来プラン検証会議委員名簿... 18



紙芝居公演（本館）

第1章 未来プランの策定と基本的な考え方



いこいの庭（本館）



人形作品展
（本館）



子ども向け
ブックリスト

1-1 未来プランの概要

(1) 目的

図書館の果たすべき役割を再認識した上で、時代の変化に対応し、豊岡のコミュニティの活性化、知的生産性の向上に資する新しい機能を持ちあわせた図書館像を描くための具体的な計画を定める。

(2) 位置づけ

図書館法の趣旨を活かし、豊岡市立図書館の設置及び管理に関する条例および同条例施行規則に基づき、みんなに親しまれる図書館の機能と担うべき役割、図書館の目指す姿を明確に示すものとする。

(3) 取組期間

前期：2017年度～2021年度

後期：2022年度～2026年度

当初計画の進捗管理と、時代の流れに的確に対応するため、毎年プランの進捗状況を把握し、策定から5年後[2021年]に未来プランの内容修正や改定も含めて検討した。

1-2 策定の背景

(1) 豊岡市第3次行政改革大綱（2014年度～2021年度）

豊岡市では、2014年3月に第3次豊岡市行政改革大綱を策定し、財政危機への引き続きの対応と成果重視への転換に取り組むこととした。中でも、行政改革実施計画において、図書館に関しては、市内各公共施設のあり方として「民間委託の推進を検討する」施設の一つに掲げている。

《第3次行政改革で中心となる4つの方針》

- ①「職員の意識改革」…政策立案能力と実行能力の向上
- ②「新しい公共による協働の推進」…自助・共助・公助による補完性の原則
- ③「選択と集中によるサービス展開」…行政資源の有効活用の推進
- ④「効率的・効果的な行財政運営」…持続可能な行財政構造の構築

第3次行政改革実施計画（抜粋）

『図書館の持つ機能を損なうことが無いよう、最善の手法を調査・研究し、部分委託の可能性、或いは直営の継続を含めて検討を行う。』

(2) 図書館のあり方検討の経緯

行政改革大綱および実施計画に基づく、図書館の民間委託を検討するにあたり、2014年5月30日、庁内検討委員会「新しい図書館機能研究会」を設置し、図書館勉強会や研究会での協議を重ねた。

また、外部アドバイザーにも意見を求める中で、行革の『民間委託か直営か』の視点は一旦保留し、原点にかえて図書館の役割と機能を再考し、10年後の図書館像を描くことが重要であると判断した。

(3) 豊岡市図書館未来プラン検討会議の設置

行政主導でなく、市民参画のもとで10年後の図書館像を検討するため、「豊岡市図書館未来プラン検討会議」を2015年11月19日に設置した。

同検討会議は、図書館が知の蔵としての機能をもち、かつ、時代の変化に対応した新たな機能を持ち合わせた図書館のあり方を描く、『豊岡市図書館未来プラン』を策定することを設置目的とした。

(4) 中間検証の実施

プラン策定から5年後に、検証と次の5年間の重点課題・取り組み方針を検討するため、館内アンケート、web アンケート、ワークショップを開催し、「豊岡市図書館未来プラン検証会議」を2021年5月25日に設置した。

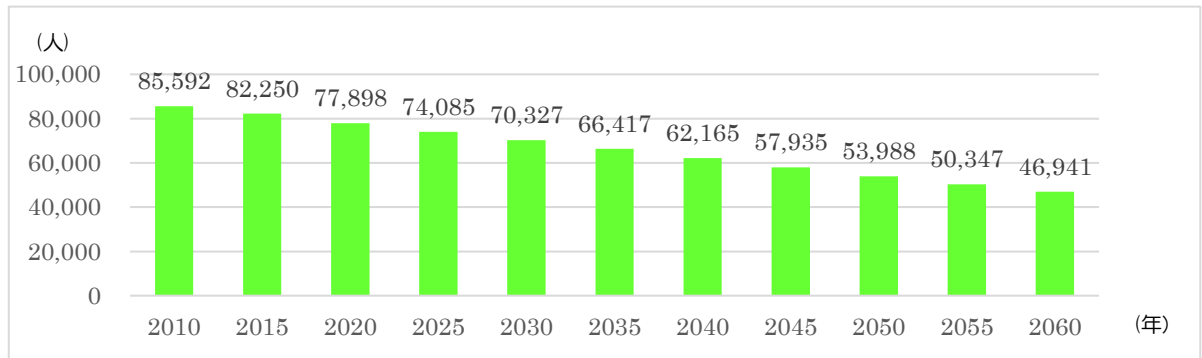
第2章 図書館の現状と課題

2-1 現状

(1) 人口推移、入館者数、貸出点数の推移

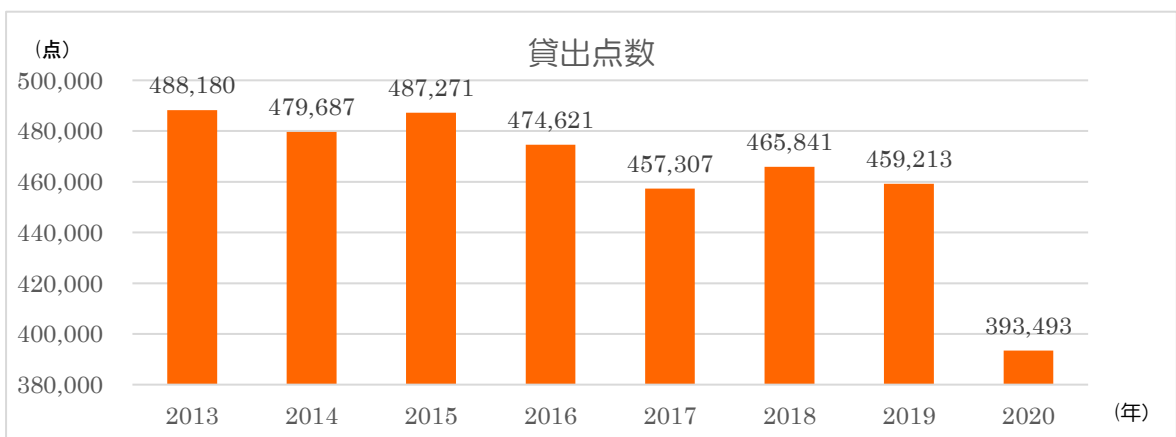
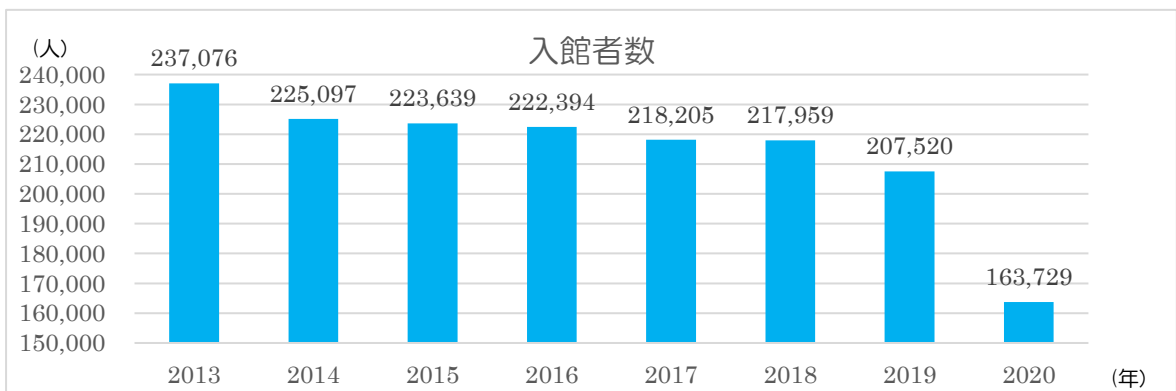
ア 豊岡市の人口推移 ※2020年以降は推計値（「豊岡市人口ビジョン」政策目標推計より）

日本国内の大方の自治体と同様、豊岡市の人口は減少を続けており、現在は7万人台後半を維持しているが、40年後には5万人を下まわると推計されている。



イ 入館者数・貸出点数の推移（「豊岡市2020年度事務報告書」より）

近年では入館者数、貸出点数ともに減少する傾向にある。特に、2020年度はやむをえないことであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用は激減した。



(2) 年代別利用者の登録数

(「豊岡市2020年度事務報告書」より)

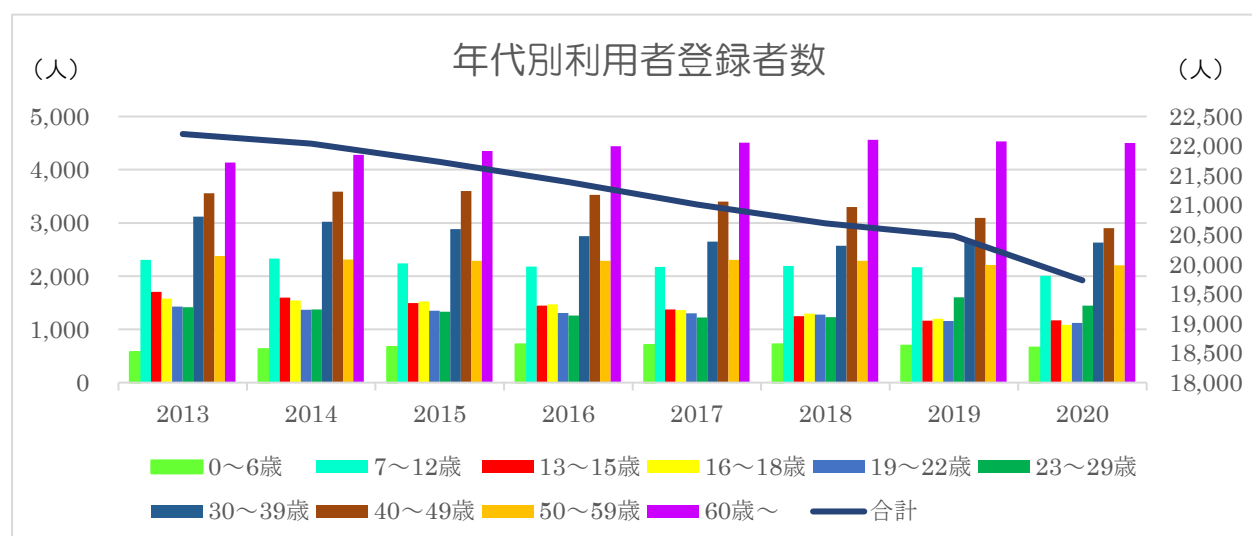
少子高齢化が進行し、当館の利用者も高齢者の占める割合が高くなっている。増加しているのは60代以上のみで、他の年齢層は減少している。特に、直近5年間の40代の登録者の減少が著しい。

0～6歳については、ブックスタート事業の浸透や乳幼児向け事業の充実により他の層に比べて下げ幅が緩やかである。

当館の問題は利用者数の減少を見るのではなく、利用者登録率が減少傾向を続け、市民全体の3割を切っていることにある。行政サービスである以上は、市民生活の実態を踏まえ、サービスメニューを再検討し、新規利用層の開発に努める必要がある。

(人)

年 歳	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2013と の増減
0～6	575	631	671	716	706	720	692	660	↗
7～12	2,307	2,328	2,238	2,183	2,175	2,195	2,171	2,004	↘
13～15	1,704	1,596	1,496	1,449	1,372	1,250	1,162	1,173	↘
16～18	1,578	1,545	1,523	1,468	1,364	1,297	1,199	1,085	↘
19～22	1,429	1,371	1,350	1,311	1,300	1,277	1,160	1,121	↘
23～29	1,417	1,372	1,333	1,262	1,225	1,230	1,603	1,449	↗
30～39	3,117	3,022	2,886	2,750	2,648	2,571	2,657	2,629	↘
40～49	3,558	3,588	3,601	3,525	3,403	3,300	3,093	2,900	↘
50～59	2,382	2,313	2,286	2,286	2,306	2,288	2,211	2,205	↘
60～	4,137	4,277	4,349	4,444	4,511	4,563	4,534	4,504	↗
合 計	22,204	22,043	21,733	21,394	21,010	20,691	20,482	19,730	



(3) 事業の現状

- ・おはなし会等の読み聞かせ事業を、館内事業として年齢を分けて行っている他、学校や施設に出向いて読み聞かせやブックトークなどの出前サービスを実施している。
- ・事業実施にはボランティアの協力が不可欠であり、研修講座を設け、各ボランティアのスキルアップを行っている。
- ・ボランティアの高齢化および専門性が向上したことにより、新規加入者が少なく、後継者の育成が急務である。ボランティアを活用する事業の拡大も課題となっている。

2-2 施設面

(1) 建物・機器

[2017年の状況]

- ・本館は1999年に移転開館して18年が経過しており、空調・照明機器の老朽化が進行している。
- ・ビデオやDVD視聴機器も各種設備・部品の劣化が目立つようになり、更新が望まれる。
- ・旧陣屋跡に建築され、景観に配慮しつつ整備されたこともあり、利用者にとって駐車スペース不足が常態化しており、長年の大きな課題となっている。

[前期の取り組み]

- ・本館で老朽化が進んでいた設備について、2018年1月に空調機器の、2018年2月に照明機器の更新を行った。
- ・部品の劣化が進んでいた視聴覚ブースは、2018年7月に施設設備の合理的配置を勘案し、利用者にとって気持ちよく利用できる位置に移転し、機材を更新した。
- ・2019年2月に本館に屋根付き駐車場を整備し、障害のある方や小さい子ども連れの方などにとって、雨天時に濡れることなく入館できるハートフルな動線が実現した。
- ・本館で飲食可能な談話スペースとして、2018年7月に「いこいの間」「いこいの庭」を整備した。
- ・本館では2018年7月、分館では2020年4月にパブリックなWi-Fi環境を整備した。

(2) 書架

- ・分館の書架は、ほぼ飽和状態で、このままでは蔵書の充実に支障をきたすため、本館の開架スペースとの調整が必要である。
- ・本館についても、閉架の収容能力に近い将来不足することが予想される。現書架の収納整理および地下書庫の整理、館外の保管場所整備を検討する。

2-3 国内の図書館を取り巻く社会情勢

(1) 複合機能型・滞在型の図書館

- ・他の自治体の図書館や複合施設の中にある図書館では、休館日の削減や開館時間が延長されているところがある。
- ・カフェの併設、Wi-Fi環境の整備など、読書以外の目的でくつろげる場所となっている。

(2) 子どもの読書活動の推進（学校図書館との連携）

- ・子どもの「主体的・対話的で深い学び」を支える環境整備のなかで、学校図書館の役割が重要視されている。
- ・学校での朝読、家庭での家読（うちどく）の重要度も注目されてきている。

※家読：家族みんなで読書することで、家族のコミュニケーションを深めることを目的とした読書運動

(3) 活発化する市民活動との協働

- ・図書館と市民との協働
- ・パートナーとして図書館と関わる市民が望まれている。
- ・自主的に活動し、他の市民・団体等と交流することで、市民の自己実現の場としての役割が期待されている。

《市民と協働している図書館の例》

館 名	団体名・活動内容
鯖江市図書館	図書館友の会と協働でライブラリーカフェを実施
伊丹市立図書館	交流フロア運営会議で事業の企画を検討し、開催
三木市立図書館	図書館ともの会主催でビブリオバトル他を開催
丹波篠山市立図書館	図書館友の会主催で読書会や講演会を開催
福崎町立図書館	図書館応援隊で読み聞かせ、環境美化などのボランティア活動を実施
伊万里市民図書館	図書館フレンズいまりで、図書館まつりや古本市などを開催

(4) 新型コロナウイルス感染症への対処（新規）

新しい生活様式に 対応した運営

- ・ソーシャルディスタンスの確保など感染防止策を十分に講じながら図書館利用の安心・安全を確保することが必要である。
- ・ICTの活用など、非来館型サービスの検討が求められている。

2-4 図書館未来プラン検証会議の調査検討（後期）

(1) 事業評価

図書館が今後5年間で取り組むべき事業について、図書館未来プラン検証会議で優先度の評価を行った。複数の委員から「積極的に取り組むべき」という評価があった事業は、以下のとおり。

ア 市民に近い返却・貸出場所の設置

- ・駅や商業施設など市民の生活動線に近いところで返却用のブックポストを設置
- ・民間文庫との連携により、図書館以外で返却や貸出ができる体制を構築する。

イ 本館談話スペースの活用

- ・新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、飲食の提供を再開する。
- ・利用者の多い土日も営業する。

ウ 学校園との連携

- ・子どもの読書活動推進計画に位置づけたとよおか教育プラン（豊岡市教育振興基本計画）に取り上げた事業（団体貸出、おはなし会、読書に関する情報の提供、ブックスタート、図書ボランティア活動の促進）を推進する。
- ・選書、テーマ展示および調べ学習の支援など、学校の図書館と授業の環境整備に関するサポートを行う。

エ 多様な人が集える図書館

- ・※外国人市民が日本語を勉強しながら日本について学べる場所として図書館は最適
- ・中高生や大学生からの助言をもとに、適宜、特設コーナーを開設する。
- ・「市内の〇〇さんがすすめるコーナー」や市民ボランティアによるミニ講演会を開催
- ・市民による選書を試行

※外国人市民：ここでは、外国にルーツを持つ方々を指しています。

(2) 利用者アンケート

図書館利用者の利用傾向や要望を把握するため、図書館利用者を対象にアンケートを行った。実施方法は、①来館者に調査票を配布し、館内の回収箱に投函する ②図書館のホームページ上で回答する の2通り。

主な意見は次のとおり。

- ・図書資料（新刊、ビジネス書、他各分野、雑誌）の充実
- ・環境整備（静かに本や雑誌が読める、くつろげる、集中して調べ物ができる）
- ・イベントの開催（作家の講演会、パソコン・スマホ教室、読書会等）
- ・館外（特に遠隔地）で貸出・返却ができる。
- ・開館時間・休館日の変更の検討
- ・職員対応の向上

(3) 市民協働ワークショップ

様々な立場の市民と共に本館・各分館の問題を共有し、その解決に向けた手段を考える機会として、ワークショップを開催した。

主な意見は次のとおり。

- ・Zoom など電子会議システムを使った読書会など非来館型の配信サービス
- ・カフェの再開・本の交換会など「いこいの間」「いこいの庭」の活用
- ・市内の本がある場所への支援・連携など、図書館資料に限らない本の利活用
- ・働く世代のためのナイトライブラリーを開催するなど定期的な開館時間の延長
- ・館内に掲示板を設置し、市民による情報発信や情報交換を可能にする。



手作りコーナー
（出石）



出張貸出（城崎）



子ども落語会（本館）

2-5 現状と課題のまとめ

〔前期〕

図書館

- ・建物自体は強固
- ・収蔵スペースが将来不足
- ・ボランティアの高齢化、後継者不足
- ・利用者、貸出点数ともに減少している
- ・事業の整理と焦点化

検討で見た課題

- ・利用した人が40%にとどまる（過去1年間の利用）
- ・事業の認知度が低い
- ・駐車場が不足（本館）
- ・サービスの充実を希望
- ・居心地のよい場所を希望

社会のニーズ

- ・コーヒー等が飲める、くつろぎの場が増えている
- ・学校支援の充実
- ・市民活動組織の設立（市民とともに協働する）

5年間の実績

- ・本館に「いこいの間」「いこいの庭」を整備した
- ・全館にWi-Fi環境を整備した
- ・図書館パートナー「みんなのとしょかん」が設立された

〔後期〕

図書館

- ・ボランティアは様々な場面で活躍しているが、高齢化と後継者不足が解消されていない
- ・利用者、貸出点数ともに減少している（コロナの影響が大きい）

検討で見た課題

- ・貸出返却の利便向上
- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・学校の図書館、授業の支援と連携
- ・民間文庫との連携
- ・読書以外の生活需要を満たす図書館利用の増加
- ・市民の図書館運営への参加

社会のニーズ

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大
- ・多様な図書館の使われ方が求められる
- ・子どもの読書活動および調べ学習支援の推進
- ・市民目線の図書館運営
- ・電子書籍、電子ジャーナルの普及



タネの図書館（但東）

第3章 図書館の機能強化

3-1 目指す姿

**図書館を学びとつながりの場として活用し、
豊岡の暮らしを楽しむ人が増えている**

基本的な考え方

- 読書を通じて想像力あふれる感性を育み、“学び続けること”を支援する。
- 周りの目を気にすることのない居場所となり、社会とのつながりや出番のきっかけとなる。
- 読書の根幹となる図書資料等の収集を積極的に行う。
- 市民の生活の場の一つに位置付ける。

機能強化の柱

柱-①

市民が図書館を身近で利用価値のある場所だと認識することが必要

柱-②

誰もが安心して過ごすことができる場所になることが必要

機能強化の視点

視点①

あらゆる 情報提供の 拠点

市民にとってのサードプレイスであり、データセンターでもある。

- ・ 幅広い視野からの資料収集
- ・ 市民に近い返却・貸出場所の設置
- ・ 非来館、非接触型サービスの展開

視点②

子どもの 読書支援

子どもの成長に必要な読解力、論理的能力を身に付ける手助けをする。

- ・ 読書の習慣化を支援
- ・ 調べ学習の定着を支援
- ・ 学校図書館の支援
- ・ ボランティア等の人材育成

視点③

つながりと活躍の きっかけづくり

協働することで市民が自分たちの図書館であることを認識する。

- ・ 市民の活動拠点を提供
- ・ 多様な主体（個人とグループ）の利用を実現
- ・ 本を通じた社会貢献と自己実現を支援

3-2 機能強化の柱と視点

(1) 柱

柱－① 市民が図書館を身近で利用価値のある場所だと認識することが必要。

- ア 必要とする資料が提供され、便利だとわかれば人は来る。
 - ・市民の「知りたい」に応えるための専門知識の向上
 - ・多くの資料からの確に目的資料を提供、専門家、専門機関との連携
 - ・司書が専門性を活かして、幅広い視野から資料収集を行う。
- イ 何気なく手にとった本から新しい発見へと導く。
 - ・図書資料等に触れるきっかけづくり
 - ・人が集まる場所への出張貸出を更に増やし、気軽に書籍を手にとれるようにする。
- ウ 学校図書館と連携し図書資料を整備し、子どもの成長をサポートする。
 - ・子どもの読書活動推進計画に位置づけたとよおか教育プラン（豊岡市教育振興基本計画）に取り上げた読書に関連する事業を推進する。
 - ・学校図書館の環境を支援し、子どもを取り巻く読書環境の充実を図る。
 - ・必要な情報を入手できる能力を身につけられるようサポートする。
- エ 図書館事業を広く市民が知っている。
 - ・ホームページ、フェイスブック、ツイッターで情報発信
 - ・マスメディア、コミュニティメディアを利用した情報発信

柱－② 誰もが安心して過ごすことができる場所になることが必要。

- ア 社会とつながり、包み込めれば、人は集まる。
 - ・公共の場として、様々な人々が安心して過ごせる居場所となる。
 - ・社会とのつながりをサポートする窓口となる。困っている人にアドバイスをし、支援する。
- イ 緩やかにさまざまな情報を提供し、活躍のきっかけとなる。
 - ・求人情報、相談先、講演会などの情報を提供する。
 - ・市民同士が本を通してつながる（読書会、おすすめ本コーナーなど）。
 - ・市民の集会を図書館が支援する。
- ウ 公共施設としての最低限のルールを守る場所
 - ・何をしても良い場所ではない公共の場であることをお互いが認め合う。

- ・市民としてのマナーさえ守れば、図書館はみんなの利用に開かれている。

エ 新型コロナウイルス感染症への対策

- ・感染防止対策の徹底（豊岡クリーン&セーフ）
- ・セルフ貸出機の導入の検討

(2) 視点

視点－① あらゆる情報提供の拠点

誰もが情報を探索できるデータセンターとなり、読書による市民の学びを支援する。

- 様々な人のサードプレイス（家庭、学校・職場に次ぐ第3の場所）になることを目指す。
- 非来館、非接触型のサービスを展開する。
- 市内にある大学等の図書館や民間文庫等との連携（相互貸借、レファレンス、イベント共催など）を進める。
- 市民に近い返却・貸出場所を設置し、利便を高める。
- 地域の課題問題の解決を支援するために地域、コミュニティ組織と協働し（出張貸出、イベント共催など）、ともに成長することを目指す。

・利用者および貸出点数の減少
・敷居が高い図書館

・読書以外の図書館利用を増加させる
・居心地のいい空間を用意する
・使いやすい、身近な図書館

視点－② 子どもの読書支援

子どもの読む力（＝読解力）を育て、生涯にわたって読書を楽しんだり、必要な情報を入手できる能力を身に付けられるようサポートする。

- 子どもの読書活動推進計画に位置づけたとよおか教育プラン（豊岡市教育振興基本計画）に取り上げた事業（団体貸出、おはなし会、読書に関する情報提供、ブックスタート、図書ボランティア活動の促進）を推進する。
- 学校の図書館、授業の支援を行う。

・子どもの読書率

(参考) 2020 年 小学校 36.0%、
中学校 26.7%

※学校の授業時間以外に、平日、
1 日当たり 30 分以上読書をする
児童生徒の割合

- ・子どもに読書習慣を定着させる
- ・学校園の図書館、授業への支援
- ・読書への関心を高める情報の提供
- ・地域や家庭で子どもの読書への理解者を増やす

視点－③ つながりと活躍のきっかけづくり

協働することで市民のための図書館、市民の交流の場という意識を広める。

- 地域団体や学校、個人とつながり、市民の発表の場を企画する。
- 市民団体の活動拠点や成果発表の場として、図書館を開放する。
- 市民ボランティアを能動的、主体的存在として認め、連携していく。
- 図書館パートナー「みんなのとしょかん」と協働して活動を展開する。
- 「日本を学ぶ」外国人市民の交流拠点として活用される。

- ・図書館パートナー「みんなのとしょかん」
- ・本好きな人たちの活躍の場
- ・多様な人たちの利用

- ・本に関連した市民団体の活動拠点
- ・社会貢献、自己実現の場
- ・蔵書を活用した市民参加による
「日本を学ぶ」外国人市民の交流拠点に。

3－3 後期5年間に取り組む内容

目指す姿を達成するため、次の点に取り組む必要がある。

(1) 施設機能の整備

ア 市民に近い場所での図書館資料の返却・貸出場所の増設

- ・JR豊岡駅や同駅前の複合施設に返却ポストを整備する。
- ・民間文庫との連携により返却・貸出場所を増設する。

イ 学校図書館の機能強化

- ・学校図書館の現状と課題について図書担当教諭と情報共有をし、協力・支援する。
- ・学びを支援するため、学校図書館の環境整備を支援し、調べ学習の強化をバックアップする。

ウ 誰にでも利用しやすい施設

- ・自動翻訳機やアプリの活用、外国語に堪能なボランティアの活用など、外国人市民も利用しやすい環境を整える。
- ・地域コミュニティや子育て支援施設に対する団体貸出を推進する。
- ・本館談話スペース「いこいの間」での飲食提供の再開

エ 非来館・非接触型サービスの展開

- ・Zoom など電子会議システムを活用し読書会、ビブリオバトルなど配信する。
- ・館内にセルフ貸出機を設置する。

(2) 施設の長寿命化

豊岡市公共施設個別施設計画に基づき、必要に応じて施設改修、機器更新を行う。

(3) 事業推進体制の見直し

ア ボランティアの養成

- ・ボランティアの高齢化と後継者不足を解消するため、新規養成講座を開催する。
- ・定期的に研修会を開催しスキルアップを図り、館内にとどまらない活躍の機会を提供する。
- ・ボランティアの活動の種類・分野と範囲を再検討する。

イ 図書館パートナー組織の活動支援

- ・図書館パートナー「みんなのとしょかん」は、本が好きで、本を使って何か楽しいことをしようという人の集まり
- ・豊富な知識と柔軟な発想で、図書館を舞台に様々な活動を展開する。
- ・これまで図書館が行ってきた事業への参画や、自らの発意で事業を企画し実施する。
- ・自発的な活動を支えるため、情報提供や費用の一部負担など必要な支援を行う。

ウ 地域コミュニティとの連携

- ・団体貸出の利用者として連携を強化する。
- ・地域コミュニティの本にまつわる活動（読書会、ストーリーテリング、資料収集）を支援する。
- ・地域コミュニティと共催してイベントを実施していく。

エ 配送の検討

- ・来館困難者やコロナ対策のための宅配サービスについて調査研究する。

オ 多様な市民の参画

- ・外国人市民、中高生、大学生など多様な市民が企画し、参加できる事業を検討する。

3-4 管理運営計画

(1) 図書館の運営方式について

2017年2月の図書館未来プラン（初版）では、運営方式については当面直営方式とし、引き続き管理運営体制については調査研究を続けることとした。

〔今回の検討結果〕

今回の中間検証では運営方式については、基幹部分の直営は当然のこととし、他の市長部局、教育委員会、市内外の専門家、専門機関との協働の高度化を目指すものとする。

〔参考 初版の検討結果〕

現段階では、課題を抱えながらも「知の蔵」としての基本的な機能を発揮してきた現在の直営方式を基本としながらも、行政と民間のメリット（情報発信、業務改善等）を活かしつつ、民間および新しい市民活動組織との協働を進め、図書館の目指すべき姿の実現を目指すことが適当であると考えられる。

今後も社会の変化に対応していくために、引き続き管理運営体制について、調査・研究を続けていく必要がある。

(2) 組織の検討

当初の方針を継承して、選書や事業の実施、市民団体等との調整等のノウハウをもつ司書資格所有者を継続的に雇用し、経験豊かな職員を育てることで、組織の発展・強化を図る。

(3) 施設利用

当初の方針を継承して、他の公共施設との休館日の調整をした上で、利用者のニーズに沿った開館時間、休館日を検討する。



いいいの間「自分の木」（本館）



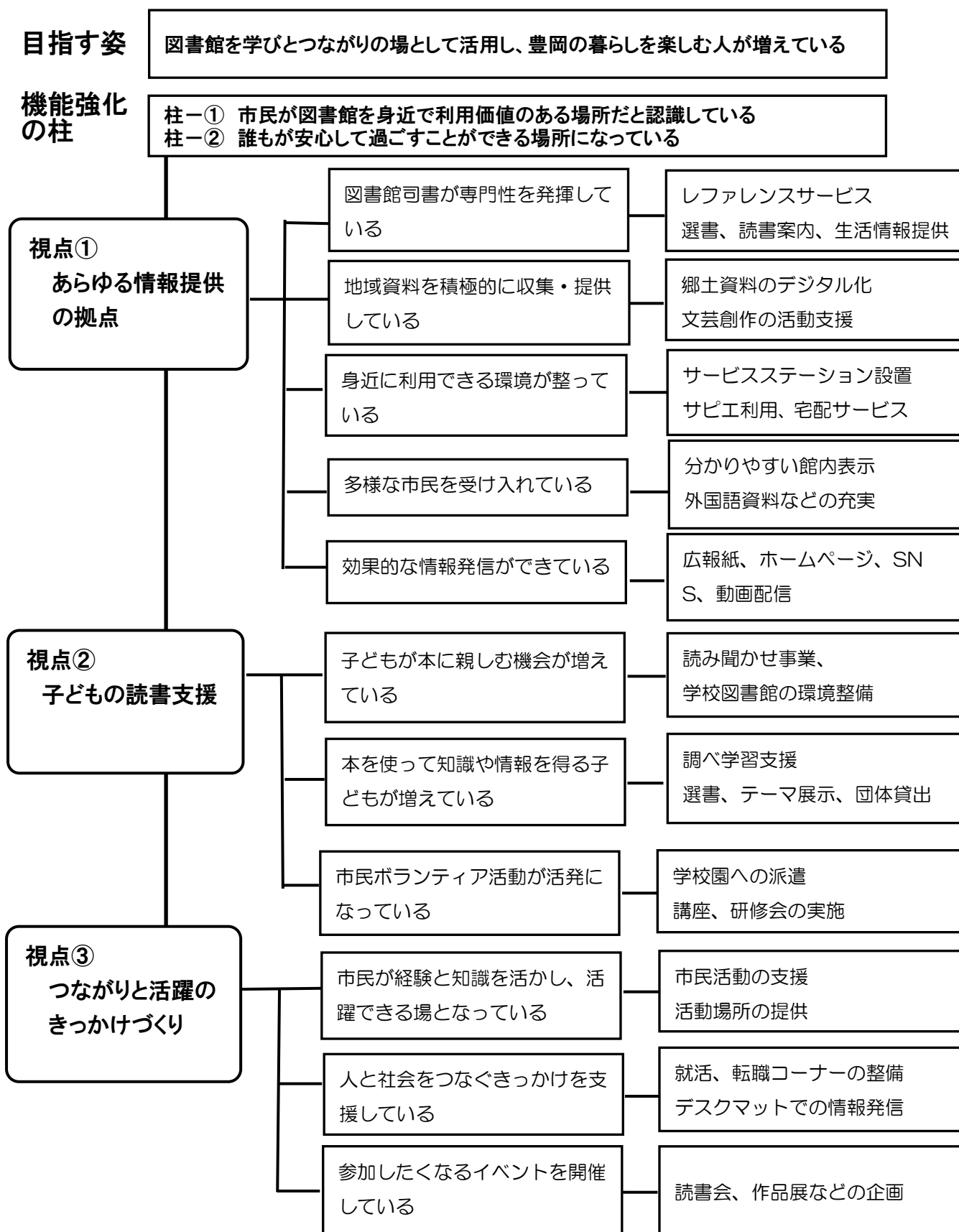
小学生による
本の紹介
（日高）



出張貸出
（竹野）

第4章 事業推進計画

4-1 戦略体系図



4-2 事業推進スケジュール

	2022 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
視点① あらゆる情報提供 の拠点	J R 豊岡駅や同駅前の複合施設に返却ポストの整備				
	民間文庫などとの連携により返却・貸出場所の確保				
	セルフ貸出機の設置				
	Zoom など I C T を活用した非来館型の双方向サービス				
	インフォメーションボードを設置し、市民サークルやイベント情報の発信の支援				
	館内で求人情報、専門家・専門機関、講演会などの情報を提供				
	宅配サービスの調査研究				
	地域コミュニティ組織に団体貸出の推進				
視点② 子どもの読書支援	学校図書館の環境を支援				
	子育てセンターとの共催事業				
	子どもの読書活動に関わるボランティアの育成				
	学校園への団体貸出 市内全小学校 “ お話し会 延べ 100 回/年				
視点③ つながりと活躍の きっかけづくり	本館談話スペース「いこいの間」での飲食提供の検討				
	自動翻訳機やアプリの活用など、外国人市民も利用しやすい環境の整備				
	外国人市民、学生など多様な人が企画し参加できる事業を実施（実施例） ○ボランティアによる外国人市民を対象とした講座 ○「市内の〇〇さんがすすめるコーナー」の開設 ○学生からの助言をもとに、イベント、特設コーナーを開設				
	本と情報に関連した市民団体の活動拠点				
	図書館パートナー組織の活動支援				
そ の 他	休館日・開館時間の検討				
	司書職員の計画的な採用・職員のスキル向上のための研修				
	資料の保管場所の検討				

豊岡市図書館未来プラン検討会議委員名簿（2015 年 11 月～2017 年 2 月）

※役職は当時

	氏 名	職業・役職等
座長	山本 順一	桃山学院大学経営学部・経営学科教授
副座長	木村 尚子	一般社団法人暮らしの学校農楽（の～ら） 代表
委員	三木 三恵子	図書館ボランティア団体「豊岡おはなしのくに」会長
委員	衛藤 朋絵	小学校 教諭
委員	木下 公香	Sweets&Books キノシタ経営
委員	西垣 義嗣	F Mジャングル 企画・報道部長
委員	片岡 大介	三木屋代表取締役
委員	岡居 由紀	主婦、図書館利用者
委員	田口 幹也	城崎国際アートセンター館長
委員	中井 久子	主婦、図書館利用者
委員	岸田 尚子	特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお 多文化共生マネージャー

豊岡市図書館未来プラン検証会議委員名簿（2021 年 5 月～10 月）

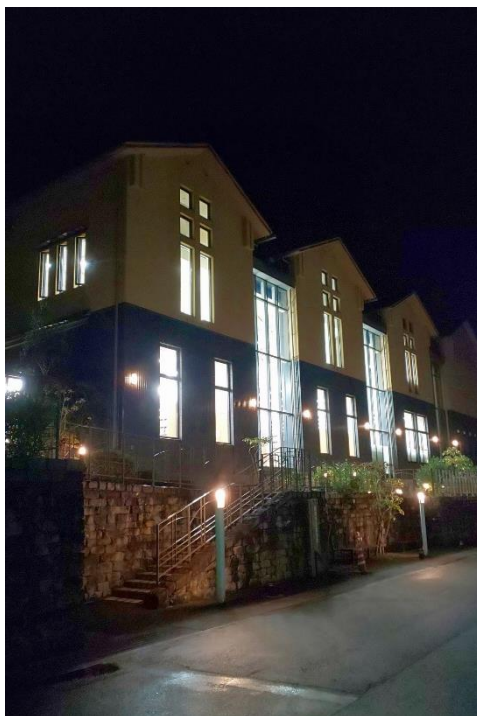
	氏 名	職業・役職等
座長	山本 順一	放送大学客員教授
副座長	西垣 義嗣	F Mジャングル
委員	瀬尾 美智子	図書館ボランティア団体「豊岡おはなしのくに」
委員	仲本 智子	小学校 教諭
委員	木下 公香	Sweets&Books キノシタ経営
委員	木村 尚子	一般社団法人暮らしの学校農楽（の～ら） 代表
委員	岸田 尚子	特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお 多文化共生マネージャー
委員	渡邊 斐都	地域おこし協力隊

豊岡市図書館未来プラン検証会議 会議スケジュール

2021 年 5 月 25 日（火）	第 1 回検証会議
2021 年 6 月 29 日（火）	第 2 回検証会議
2021 年 8 月 31 日（火）	第 3 回検証会議
2021 年 9 月 28 日（火）	第 4 回検証会議

附属資料

- ・ 図書館未来プラン検討会議の調査検討（前期）
- ・ アンケート（今回分）



『豊岡市図書館未来プラン 新版』は、どなたでも自由に二次利用できます。
なお、二次利用に当たっては、出典の表示をお願いします。

豊岡市図書館未来プラン 新版

2021 年 10 月

豊岡市

問い合わせ先： ☎668-0042 兵庫県豊岡市京町 5-28

豊岡市地域コミュニティ振興部生涯学習課図書館

TEL 0796-23-6151 FAX0796-24-1819

URL <http://lib.city.toyooka.lg.jp>

E-mail toyolib@city.toyooka.lg.jp